

## 緑のサヘル 2023年度 活動紹介

### 【ブルキナファソ】

2023年、ブルキナファソは武装勢力による襲撃がより激化し、2月には土地を追われた避難民が国民総数の1/10に迫る200万人に達しました。「緑のサヘル」の活動地域を中心とするコングシ市には、地域外から流入した避難民や地域内の村々から一時避難した住民が殺到し、その数は一時6万人を越えました。政府は22県に非常事態宣言を発しテロ対策に当たりましたが、9月にはクーデター未遂が発生する等、混乱が続きました。12月現在、コングシ市内の20か所に設置されたキャンプでは24,000人の避難民が居住しており、食料や生活用品の不足、また衛生の低下や疾病の蔓延等、その生活は困窮を極めています。こうした状況から、2023年度はこれまで継続して来た各活動を縮小し、避難民の支援に重点を置くことにしました。

#### ● 避難民支援 ●

2023年は、20キャンプの中から特に緊急を要すると思われる80家族(1,007人)に対し、米2,000kg、スパゲッティ400kg、Tシャツ97枚の配布を行いました。米とスパゲッティは、他の穀物と比べて調理に必要な道具や作業が少ないため時間と労力の節減に繋がり、Tシャツは日差しを和らげ通風を確保できるため体力の低下を緩和できるとの判断によるものです。



配布用の米とスパゲッティ。



Tシャツを着た避難民の皆さん。



各キャンプへの配布。

#### ● 小学校緑化支援 ●

当初2023年度は各校への働きかけは行なわない予定でしたが、7月にコングシ市内の10校より支援要請が届き、急遽各校に対してバケツ(2個)、スコップ(2本)、つるはし(2本)の配布を実施しました。この10校はいずれも「小学校緑化支援」の経験校で、各々活動を継続していましたが、避難民児童の編入によって資機材が足りなくなり、今回の要請に至ったものです。11月以降は、治安の改善によって苗木管理を再開した一部の小学校に対して、技術指導を継続しています。



10校に対して植林用具を供与。



治安が改善し登校を再開した学校。



苗木管理の指導も再開。

また5月には、2022年6月に10校に対して配布した計450本の苗木の追跡調査を行ないました。しかし、治安の悪化による退避校（2校）や通学制限校（2校）もあり、確認できた苗木残存数は298本（残存率66.2%）に留まりました。例年各校の関係者を集めて行なっていた「成績発表会」に関しても、状況を検討して開催を見送ることとしました。

● 村落植林 ●

地域の植生回復や湖岸沿いの土地の有効利用、生活林の造成を目的とした活動で、2008年以来、延べ11村において約163,000本の植林を行ない、住民への苗木や必要資機材の配布、普及員による巡回指導を継続して来ました。成長した木々は計画的に伐採され、薪として各家庭で利用されるほか、用材として販売され家計を助けています。

2022年度は植栽時期である11～12月に急激に治安が悪化したため、新たな植栽は行わず灌水作業のみを継続していましたが、今年さらには治安が悪化したことによって、多くの住民が避難せざるを得ない状況になってしまいました。従って2023年度は植栽、灌水、伐採共に実施されていませんでしたが、11月以降は治安がやや回復し、一部の村で灌水作業が再開されています。

【チャド共和国】

現地における活動は、2006年12月に終了した難民キャンプでの活動を最後に休止状態が続いています。今年度も、国際機関や報道関係のwebサイトを中心に、食糧事情や治安関係の情報収集を定期的に行ない、整理・分析した結果をニュースレターに掲載する等、発信に努めました。

【日 本】

東京事務局では現地活動をサポートするため、情報発信や自己資金の改善に向けた様々な取り組みを実施しています。「講演・講師」については、一般（1回）、大学（2校）、中学校（5校）、小学校（1校）を実施、計890名の方々に現地の状況や当団体の活動について紹介することが出来ました。

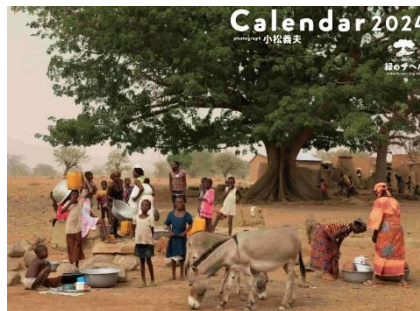
区分	場 所	人 数
一般・大学	緑のサヘル盛岡支部、神戸大学、明治学院大学	179
小中学校	滝沢東小学校、 東山中学校、仙北中学校、見前南中学校、黒石野中学校、下橋中学校	711
計	9講演	890名

また、一般・支援者への広報と報告を目的とした「ニュースレター」の発行（4回）、アフリカ紹介と活動資金の獲得を目指した「カレンダー」の製作・販売、写真資料の貸出（1自治体・2社・1団体）を行なったほか、昨年に引き続き「三鷹国際交流フェスティバル」に出展しました。

写真資料貸出	北杜市役所、（特活）Nature Center Risen、日本入試センター、駿台予備学校
--------	---



2023年度は計9回の講演を実施。



2002年から続いているカレンダー。



国際交流イベントへの出展。